

都市圏ビジョンで位置づけられている「今後検討する事業」の検討状況について

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
1 圏域全体の 経済成長の けん引	ア 産学金官 民一体となっ た経済戦略の 策定, 国の成 長戦略実施の ための体制整 備	—	48	中核人材の育成 に向けた検討	企業の中核を担う人材や 企業の後継者の育成方策 について検討を行う。	共通の地域課題であ り, 広域全体で取り組 むことにより事業効率 を高めることができる。	平成29年度は都市圏 ビジョンの「実施を計画 する事業」の検討のみ を実施し, 「今後検討 する事業」についての 検討は, 実施を計画す る事業の検討を優先し たため, 未実施。	中核人材の育成に向 けた検討 0円 事業の実施の可否に ついて広域市町で意 見交換, 検討を行う。
	イ 産業クラス ターの形成, イ ノベーション実 現, 新規創業 支援, 地域の中 堅企業等を核 とした戦略 産業の育成	—	49	(仮称)食産業連 携強化事業の実 施の検討	圏域の農業生産者及び商 工業者や飲食店関係者 等, 食産業に関わる事業 者を対象とした, 事業マッ チングのためのセミナー等 を開催する。	圏域内の農業以外の 業種が個々に持っている 経営に関する情報など を共有することで, さ らなる産業の活性化に つながる。	盛岡広域首長懇談会 食農推進協議会の取 組として検討したが, 結論には到らなかつ た。 1 現地研修・視察な どの実施 2 6次産業化, 地産 地消, 圏域ブランドづ くりの検討 3 他機関・団体との連 携の検討	盛岡広域首長懇談会 食農推進協議会の取 組の中で引き続き検討 していく。 1 現地研修・視察な どの実施 2 6次産業化, 地産 地消, 圏域ブランドづ くりの検討 3 他機関・団体との連 携の検討
		—	50	クリエイティブ産 業の育成	クリエイティブ産業と他分 野の連携により, 新たな価 値の創造やニーズの発掘 につながる新規性・独創 性のあるプロジェクトを支 援する。	クリエイティブ産業の育 成支援の対象を広域 圏に拡大することで, 企業同士の良好なマッ チングの可能性が拡大 し, より効果的な協業 体制の構築等を期待 できる。	平成29年度は都市圏 ビジョンの「実施を計画 する事業」の検討のみ を実施し, 「今後検討 する事業」についての 検討は実施を計画す る事業の検討を優先し たため, 未実施。 ただし, 認定プロジェ クト毎には広域市町の事 業者間での連携実績 あり。	クリエイティブ産業の 育成の検討 0円 広域圏でのクワイ ティブ産業育成の効 果, 必要性について広 域市町で検討を行う。

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
1 圏域全体の経済成長のけん引	イ 産業クラスターの形成、イノベーション実現、新規創業支援、地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成	—	51	産業振興組織の共同設置の検討	圏域企業の新分野進出支援や起業家支援、産業間交流などの産業振興に係る事業を行う組織を圏域で共同設置することについての検討を行う。	広域で組成することにより、広域圏内企業の窓口の一本化が図られる。	平成29年度は都市圏ビジョンの「実施を計画する事業」の検討のみを実施し、「今後検討する事業」についての検討は、実施を計画する事業の検討を優先したため、未実施。	産業振興組織の共同設置の検討 0円 広域圏で産業振興を実施する組織の効果、必要性について広域市町で意見交換、検討を行う。
		—	52	盛岡広域圏「ぐるっとグリーンツーリズム」の検討	これまでの市町村単位の農家民泊を主体としたグリーンツーリズムではなく、各市町の特色ある農業体験を組み合わせたグリーンツーリズム事業の構築を検討する。	研修セミナー等で得た圏域内の各種情報を発信することにより、新たな各市町の情報共有及び魅力発信につながる。	盛岡広域首長懇談会食農推進協議会の取組結果は下記のとおり。 ○盛岡地方農業農村振興協議会 農村活性化部会等との連携の検討(グリーン・ツーリズム活動活性化事業等への参加など) ⇒連携の検討はしたが、具体的な取組までには至らなかった。 ○産地訪問ツアーへの参加 ⇒食農推進協議会として6次産業化に取り組む農業者や実践者を視察を2回実施するとともに、今後の連携に向けた情報交換会を実施した。 ○「もりおかマチナカ商談会」と「もりおか広域地域の食de交流マルシェ」への参加 ⇒広域市町に広く周知し、各市町担当者が可能な範囲で参加した。	盛岡広域首長懇談会食農推進協議会の取組として実施する。 ○盛岡地方農業農村振興協議会 農村活性化部会等との連携について、引き続き検討を行う。(グリーン・ツーリズム活動活性化事業等への参加など) ○産地訪問ツアーへの参加 ○「もりおかマチナカ商談会」と「もりおか広域地域の食de交流マルシェ」への参加

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
1 圏域全体の経済成長のけん引	イ 産業クラスターの形成, イノベーション実現, 新規創業支援, 地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成	—	53	地域ICT活用事業	農林業・医療・介護などの地域課題解決のためICTの活用方策について, 調査・研究を行う。	地域課題をICT活用によって解決し, 地域活性化を行うにあたり, 広域で取組むことにより, 多様なIT企業との共同研究が可能となる。	平成29年度は都市圏ビジョンの「実施を計画する事業」の検討のみを実施し, 「今後検討する事業」についての検討は, 実施を計画する事業の検討を優先したため, 未実施。	地域ICT活用事業の検討 0円 広域圏でのICT活用事業の調査研究について広域市町で意見交換, 検討を行う。
		—	54	再生可能エネルギーの利用促進	再生可能エネルギーを利用して発電した電力を圏域内で消費する事業スキームを構築する。	広域圏のスケールメリットを活かした事業の展開や各市町でのエネルギー施策を参考とした新たな取組等が期待できる。	エネルギー地産地消に向けた売電先切替の実施 0円 エネルギー地産地消に向けて, 盛岡市クリーンセンター(バイオマス発電)と盛岡市中央卸売市場メガソーラーの売電及び市立小中学校等との電力契約(買電)先となる電力会社を公募型プロポーザル方式により選定し, 平成30年2月から切り替えた。 盛岡市単独で実施したが, 一部の市町から賛意を得られておらず, 広域市町との協議は実施していない。	広域圏での再生可能エネルギーの利用促進の検討 0円 盛岡市単独で平成29年度に実施した内容をもとに, 事業の実施の可否について協議を行う。 なお, 再生可能エネルギーに関しては, 各市町で取り組み状況に違いがあり, 広域圏での実施が難しい状況である。
		—	55	新規就農者への支援	新規就農者等の掘り起こしや支援を行う。	広域圏内で連携した就農支援情報を発信することにより, 新たな魅力発信につながり, 新規就農者の拡大が図られる。	圏域8市町が集まり, 圏域内の新規就農者を対象とする事業について, 普及センターから情報提供を受けた。	盛岡市が実施主体となり, 盛岡市の新規就農者の経営事例を視察研修予定。参加者は圏域から募ることとする。

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
1 圏域全体の 経済成長の けん引	ウ 地域資源 を活用した地 域経済の裾野 拡大	—	56	製麺工業と農業 の連携の促進に ついての検討	圏域において麺類の消費 量が多いことから、多くを 輸入に頼っている小麦原 料の域内調達率を向上さ せる方策等について研究 する。	圏域全体で実施するこ とで生産量の確保と地 場産品の振興が見込 まれる。	平成29年度は都市圏 ビジョンの「実施を計画 する事業」の検討のみ を実施し、「今後検討 する事業」についての 検討は、実施を計画す る事業の検討を優先し たため、未実施。	製麺工業と農業の連 携の促進についての 検討 0円 小麦原料の域内調達 率を向上させる方策等 の研究について広域 市町で意見交換、検討 を行う。
		—	57	清酒とコメの連携 の促進について の検討	圏域での消費量が多く、 移輸出にも期待ができる 清酒について、多くを移入 に頼っているコメの域内調 達率を向上させる方策等 について研究する。	圏域全体で実施するこ とで生産量の確保と地 場産品の振興が見込 まれる。	平成29年度は都市圏 ビジョンの「実施を計画 する事業」の検討のみ を実施し、「今後検討 する事業」についての 検討は、実施を計画す る事業の検討を優先し たため、未実施。	清酒とコメの連携促 進についての検討 0 円 コメの域内調達率を 向上させる方策等の研 究について広域市町 で意見交換、検討を行 う。
		—	58	産業博覧会の開 催の検討	圏域の産業の活性化に向 け、企業が自社製品及び 技術をアピールする機会 としての「産業博覧会」の 開催について調査・研究 を行う。	圏域地場産業の振興 及び経済の活性化が 見込まれる。	平成29年度は都市圏 ビジョンの「実施を計画 する事業」の検討のみ を実施し、「今後検討 する事業」についての 検討は、実施を計画す る事業の検討を優先し たため、未実施。	産業博覧会開催の事 業化の可否について の検討 0円 住民へのアピールと しては期待できるが、 産業振興を考えた場 合、新たな市場の開 拓、販路の拡大が期待 できなければ実施効果 が小さいと考えられ、商 談先(バイヤー)の招聘 が大きな課題である とともに、費用対効果 を十分に検討し事業化 の可否について意見交 換、検討する。

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
1 圏域全体の経済成長のけん引	ウ 地域資源を活用した地域経済の裾野拡大	—	59	手づくり村リニューアル事業	(公財)盛岡地域地場産業振興センターの建物・設備及び展示をリニューアルすることで、地場産業の振興拠点としての機能強化を図る。また、盛岡広域で受け継がれている、南部鉄器や漆器、染物、駄菓子などの伝統の技や味を後世に伝えるための「(仮称)伝統技術継承工房」を設置し、盛岡地域の貴重な財産である伝統技術を継承する拠点とする。	盛岡手づくり村が盛岡広域の地場産業の拠点であることが再認識され、地域経済の活性化が見込まれる。	平成29年度は都市圏ビジョンの「実施を計画する事業」の検討のみを実施し、「手づくり村リニューアル事業」についての検討は、国の補助事業を活用した調査事業を実施し、その結果を踏まえて検討することとしたため、未実施。	手づくり村リニューアル事業についての検討 0円 「(仮称)伝統技術継承工房」を含めた盛岡地域地場産業振興センターのリニューアルの事業化の可否について検討する。
	エ 戦略的な観光施策	—	60	ニューツーリズムの振興	スポーツ、環境、健康、産業など特定のテーマと観光を組み合わせたニューツーリズムについて、モデルコース紹介や誘致活動を行う。	特定テーマと観光を組み合わせたニューツーリズムのコース設定により、新たな観光需要を期待できるモデルコースの紹介や誘致活動を行うことができる。	体験プログラムの調査研究 0円 盛岡広域8市町を含む12市町で構成する盛岡・八幡平広域観光推進協議会において、各市町の既存の体験プログラム等について課題を整理し、広域圏における将来の活用について研究を行い、自治体間で情報の共有を図った。	体験プログラムの調査研究 0円 盛岡広域8市町を含む12市町内における体験プログラム等を活用した新たな観光客誘致を図る施策を検討し、具体的な体験プログラム等の企画を行う。
		—	61	エコツーリズムの振興に向けた検討	再生可能エネルギー施設の視察・見学などのエコツーリズムの振興について調査・研究を行う。	再生可能エネルギー施設を多様化させることにより、視察者や見学者のニーズに合わせたエコツーリズムを実施することができる。	広域対応に向けた事業スキームの検討 0円 一部の市町から賛意が得られておらず、広域市町との協議は実施していない。	広域対応に向けた事業スキームの検討 0円 事業の実施の可否について協議を行う。 なお、再生可能エネルギーに関しては、各市町で取り組み状況に違いがあり、広域圏での実施が難しい状況である。

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
1 圏域全体の経済成長のけん引	エ 戦略的な観光施策	—	62	2次交通体系の整備	公共交通拠点を起点とした圏域市町を結ぶ2次交通の整備に向けた取組やサービス向上の仕組みづくりを行う。	公共交通拠点を起点とした圏域市町を結ぶ2次交通の整備により、観光客等の利便性が高まる。	2次交通に関する調査研究 0円 盛岡広域8市町を含む12市町で構成する盛岡・八幡平広域観光推進協議会で企画・実施したファミツアーを通じ、圏域内の観光事業者や旅行事業者等と連携し、圏域内での滞在・周遊につなげる旅行商品の開発と併せ、圏域市町をつなぐ2次交通に関する調査研究を行った。	2次交通に関する調査研究 0円 観光事業者や旅行事業者等と連携し、引き続き、圏域内での滞在・周遊につなげる旅行商品の開発と併せ、圏域市町をつなぐ2次交通に関する調査研究を進める。
		—	63	日帰り客の創出(滞在時間の延長)に向けた検討	圏域内の住民の行楽等による近隣地域への訪問の促進方策等について調査・研究を行う。	圏域内の住民の行楽等による近隣地域への訪問促進、機会提供により、一層の交流促進が図られる。	圏域内における交流促進に向けた調査研究 0円 盛岡広域8市町を含む12市町で構成する盛岡・八幡平広域観光推進協議会において、(公財)盛岡観光コンベンション協会と連携し、圏域内での交流促進の方策の一つとして企画・販売している共通入浴券について、利用状況などの検証を行った。	圏域内における交流促進に向けた調査研究 0円 観光客及び住民の動向調査や分析を行い、圏域内における交流促進に向けた方策について調査研究を進める。

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
2 高次の都市機能の集積・強化	ア 高度な中心拠点の整備, 広域的公共交通網の構築	—	64	(仮称)複合交通センター基本計画策定事業	盛岡駅西口地区の(仮称)複合交通センター用地を圏域内外の交通アクセス拠点として整備するために, 必要な施設・規模等についての調査・研究を踏まえ, 構想を策定する。	利便性を高め, 交通結節点としての機能を強化することにより, 圏域全体のアクセス性の向上が図られる。	交通アクセス拠点として既存施設とともに利便性向上に向けた利用形態の検討 0円 暫定利用とバス発着再編の状況を踏まえ, 現状の課題や今後の対応等についてバス事業者を始めとする関係団体等と協議を行なった。 複合交通センター用地を含む西口開発に関して, 関係者との勉強会を開催した。	複合交通センター用地を含む西口開発の今後の位置づけ等について関係者との勉強会を継続する 0円
3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	ア 生活機能の強化に係る政策分野	(カ)災害対策	65	もりおか復興支援センター運営事業	東日本大震災により被災し内陸に避難されている方々の生活再建を支援する拠点施設である「もりおか復興支援センター」の運営。	もりおか復興支援センターを圏域の避難者支援の中核施設に位置付け, 避難者の生活情報等を集約することにより, 多様化する生活再建に係る支援情報や各種相談業務サービスなどの充実・向上が図られる。	復興推進事業の指針となる「東日本大震災に係る盛岡市復興推進の取組方針」に基づき, これまでの事業を継続して実施する中で, 平成30年度以降の事業内容について検討し, 事業実施の可否について検討した。	復興推進の指針となる「東日本大震災に係る盛岡市復興推進の取組方針」の取組期間が平成30年度で終了することに伴い, 今後の復興推進の方向性の検討に合わせ, もりおか復興支援センターのあり方や広域圏における事業化について, 広域市町の意見を伺いながら判断する。

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	(ア)道路等の交通インフラの整備・維持	66	圏域の連携強化につながる国・県道の整備促進	高次救急医療や地域間交流, 産業振興, 防災などのネットワーク強化を図るため, 国道や主要な県道の整備促進について, 国をはじめとする関係機関等への要望活動などを行う。	渋滞がなく効率的な都市圏道路ネットワークの形成	一般国道46号「盛岡西バイパス」の2車線区間の4車線化整備及び国道46号(旧主要地方道上米内湯沢線)以南への南進について 0円 平成30年度の国・県予算に対する統一要望で平成29年7月12日(水)に関係省庁や県選出国会議員への要望を行う。平成30年度事業予算概要 【統一要望の成果】 ・一般国道46号「盛岡西バイパス」の2車線区間の4車線化整備 事業費 約3億円 事業内容:調査推進(道路設計), 工事推進(改良工事) 用地進捗率:100%(H30年3月), 事業進捗率:約76%(H30年3月) ・主要地方道上米内湯沢線以南への南進 計画段階評価を進めるための調査箇所へ位置付	一般国道46号「盛岡西バイパス」の2車線区間の4車線化整備及び国道46号(旧主要地方道上米内湯沢線)以南への南進について 0円 平成31年度の国・県予算に対する統一要望で平成30年7月上旬から中旬に関係省庁や県選出国会議員への要望を行う。

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	(イ)地域内外の住民との交流・移住促進	67	UIJターン就職支援事業	県外在住の若者等を盛岡広域圏での就職に導くために、地元企業の情報発信力及び採用力の強化を図る。	UIJターンを検討している方や就職を控える若者及びその家族等に対する地元企業の訴求力を高めることにより、地元就職率の向上が見込まれる。	<p>地方創生推進交付金を活用し、地元企業に対して次の支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求職者に向けた情報発信ツール製作の伴走的支援の実施(市内20社) ・企業の採用力向上に資する企業向け研修会の実施(市内企業9社) ・企業の採用力向上に資するモデル事例の構築及び情報発信(企業PR冊子及び採用事例集の作成) <p>※上記2事業と連携</p> <p>本事業は、その事業成果に基づきモデル事例を構築し、地元企業に広く波及させることを目的に実施しているものであるが、広域市町の連携による取組は、平成30年度以降を想定している。</p>	<p>「実施を計画する事業」に位置づけ、平成28年度、29年度に実施した事業により構築されたモデル事例のブラッシュアップを図り、その成功事例を多様な手段で広域圏内の他の企業へ広げる。</p> <p>本事業の内容について、関係市町との情報共有を図る。</p>

戦略名	大分野	小分野	NO	事業名	事業概要	見込まれる成果	H29検討結果	H30検討計画
3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上	イ 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野	(イ)地域内外の住民との交流・移住促進	68	盛岡広域定住促進事業	盛岡広域圏における移住・定住パンフレットの作成など多様な媒体を活用した情報提供や、相談員の配置などを行う。	盛岡広域圏への若年層の移住・定住者の増加	検討事業の具現化に向けた検討と構成市町との合意形成 0円 首長懇談会に地方創生部会を新たに設置し、各市町と課題や分析の情報共有、自治体独自の取組との整合を検討を行った。 検討の結果、平成30年度に試行で、盛岡広域の移住・定住パンフレットの作成することとした。	「実施を計画する事業」に位置づけ、盛岡広域圏が一体となって、移住定住施策に取り組む。30年度は以下のとおり、移住・定住パンフレットを作成する。 【対象】首都圏在住の移住定住を検討している方 【作成部数】3,000部 【コンセプト】首都圏において、移住を検討している方々に、盛岡広域8市町それぞれの魅力や特色を移住者目線で伝えるとともに、既に広域8市町に移住している方のライフスタイルや体験談などを紹介して、盛岡広域圏への移住を前向きに検討してもらうことを目指すものである。 【事業費】2,484,000円